

## 令和5年度 学校評価 自己評価書（前期）

## 1 学校の重点目標

- 学級経営を基盤とした確かな学力の向上
- 思いやりを中核とした心の教育の推進
- いじめ・不登校への対応の強化
- 体力・気力つくりと保健・安全教育の推進

## 2 課題と改善策 1.0（そう思わない） ～ 2.5（中間値） ～ 4.0（そう思う）

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
考える子	1 「共通実践事項」（分かった・できたを実感できる授業）を重視した授業改善	3.0	・ 「分かった・できた」を実感できる授業を目指して「共通実践事項の振り返りカード」を活用し、全職員の共通理解の下で授業実践してきた。
	2 基礎・基本定着のための漢字力・計算力テストや過去問良問等の実施と解説	3.1	・ 漢字力と計算力については、朝の学習タイムでの積み上げや年間計画に位置付けられているテスト期間に実施し、実態把握に努め、定着を図っている。
	3 疑問形の学習問題（めあて）をつくる場の設定	3.0	・ 本時の目標を念頭に置き、疑問形の学習問題を子供と一緒につくり、めあてとまとめの整合性を意識した授業づくりを全職員で共通理解し、共通実践している。
	4 分かる授業の推進を図るためのICT機器の積極的な活用	3.0	・ 児童評価ではタブレットを活用した授業評価が高い数値を示している。今後はタブレット活用と共に、分かる授業づくりをリンクさせながら、授業改善していきたい。
	5 家庭と連携を図った家庭学習の習慣化の推進	3.0	・ 家庭学習の重要性を学級PTAや学級週報などで何度も伝えてきた。学校と家庭が同じベクトルで子供の家庭学習を引き続き支援していきたい。
助け合う子	6 明るく楽しい学校・学級づくりを目指した元気なあいさつの指導	3.2	・ 総務委員会が自主的な取組を行ってきた。保護者からも高い評価をいただき、あいさつ指導が充実している。
	7 教児一体となった清掃活動	3.3	・ 教児ともに清掃活動の項目が高い評価を示している。率先垂範の姿が浸透している。
	8 「いじめ根絶や不登校の解消」「思いやる心を育む学級づくり」を目指した学級経営	3.2	・ 言葉遣いについては、保護者からも本校児童の課題として挙げられている。情報を交流させながら、学校と家庭と一体となった取組を強化していきたい。
	9 気配りや次の行動への心構えを育てるための「はきものそろえ」の指導	3.1	・ 靴箱の履物を揃える、トイレのスリッパを次に使う人のことを考えて揃えるという姿勢は、心に落ち着きをもたらす。事例を示し称賛することで成果が上がってきた。
	10 本好きな子供の育成を目指した年間目標読書冊数達成への啓発と親子読書の奨励	3.1	・ 貸出期間や時間を制限してきた昨年度までに比べると、担当が授業で積極的に活用したり、子供たちが自主的に貸出に行ったりする等成果が現れている。
11 日常生活に生きて働く道徳性の育成を図るための「考え、議論する道徳教育」の実践	2.5	・ 全教育活動を通して、自分の考えを述べる、相手の意見を注意深く聞く、自分の考えと比較する、議論していくという過程をこれまで以上に丁寧に取組んでいきたい。	
がんばる子	12 「よい子のきまり」を活用した指導	3.1	・ 今後も児童・保護者に内容が共有されるよう、学級PTAで説明したり、学級指導を繰り返していきたい。
	13 「望ましい食習慣の定着」と「感謝の気持ちの育成」の推進	3.0	・ 毎月献立委員会を実施して情報共有したり、栄養教諭も各学級の給食指導に入り、食育指導が充実している。
	14 「一校一運動（長縄エイトマン）」の日常化や体力つくりの推進	2.6	・ 学年や学級の取組状況について差が見られる。感染症や熱中症予防に気を配りながら、取り組んでいきたい。
	15 廊下歩行や安全な登下校など安全を意識した生活習慣の確立	3.1	・ 安全を意識した生活習慣については、特に長期休業前の生活指導で大切に指導した。月別の生活目標や保健目標でももっと取り上げていく必要がある。
	16 健康診断結果に基づいた歯や疾病治療の推進や予防のための指導	3.0	・ 治療率のクラス別一覧表をもとに、長期休業前に担当が積極的に呼び掛けた。定期的に検診しようという意識まで高めていきたい。
17 感染症対策（手洗い、換気等）や熱中症対策の継続的な指導	3.2	・ 感染症の拡大予防に配慮しながら、対応することができた。保護者の理解も一層得ながら継続していきたい。	
保護の者連・携地域	18 学級PTA、学級週報等を通じた教育方針や教育活動の丁寧な発信	3.2	・ 今後も文書案内と共に、メール等も活用して学校の詳細な情報を分かりやすく伝えていきたい。
	19 保護者からの連絡・相談への誠実な対応	3.6	・ 保護者対象の学校評価では、毎回高い評価を得ている。地域から寄せられる声も様々な方法で生かしていきたい。
	20 学校支援ボランティアの活用や地域行事への子供参加の促進	2.8	・ ボランティア活用については、2学期以降も積極的に活用していきたい。地域行事等への子供の参加も積極的に声掛けしていきたい。

## 3 次学期（年度）に向けての取組

- 教科指導については、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、「和田っ子学力向上のための共通実践事項」を再確認して、更に実践化を図っていく。
- 学力向上は、子供の夢の実現のための取組であるという共通理解の下に、子供同士で認め合える場、成就感をもつ場、自信を深める場等を設定して、自己肯定感や自己有用感を高める授業改善を図っていく。